

講壇点滴

最初の説教

使徒言行録二章一四〜二四節

牧師 姜 俔 米

使徒言行録二章一四節以降は、ペンテコステの日に、聖霊を受けたペトロと弟子たちが人々に語った説教です。聖霊が降ったこの日に教会が誕生しましたから、これは教会が人々に最初に語った言葉であります。その中に、主イエス・キリストの十字架の死のことが語られています。

教会は、聖霊の働きによって歩み出した、その最初の日から、主イエス・キリストの十字架の苦しみと死のことを、人々に語り伝えました。キリストの十字架は、教会にとって、宣べ伝えるべきことを中心であり、なくてはならないことです。これを語らなければ何も始まらないのです。ペトロが語った最初の説教に語られているのは、主イエスの十字架の死と復活です。教会は、主イエス・キリストの十字架と復活を宣べ伝えることによって歩み出したのです。そして、聖霊は弟子たちに、キリストの十字架と復活を語る力を与えたのです。

教会が主イエス・キリストの十字架の死を語ることは、人間の、しかも神様の民とされた者たちの罪を断罪するということです。ここでペトロは、「私たち」とは言わず、「イスラエルの人々」と語りかけ、「あなたがたは」と言っています。それは、自分は罪人ではな

いと言うためではなく、この説教を聞く一人ひとりが、この罪を自分の罪として受け止め、自分が主イエスを拒み、十字架につけて殺したのだということを知るためです。教会が主イエスの十字架を語るのには、それを聞く一人ひとりが、それを自分の罪がもたらしたことからして、自分が、主イエスを受け入れずに十字架につけて殺したのだということを知るためなのです。神様の民として選ばれたイスラエルの民が、神様が遣わされた主イエスを殺したのです。

この説教はペトロ個人の言葉ではありません。十二人の使徒としての、主イエス・キリストの教会としての言葉です。聖霊が彼らに降り、聖霊に満たされることによって、主イエスを信じる者たちの群れである教会は言葉を与えられたのです。主イエス・キリストの十字架において起こったことは何だったのか、そこに、神様のどのような救いのご計画があったのか、それは自分たちにとつてどのような恵みの出来事だったのか、それを彼らは、教会は、聖霊の働きによって知ることができたのです。

語ることができるとするには、そのことを確信していなければなりません。主イエスの十字架の死が、自分の罪のためであり、自分こそ主イエスを十字架につけて殺した者であるということ、しかしその自分の罪が全て神様のご計画の中に置かれており、そこに神様の赦しの恵み、救いが実現していること、それを知らされ、信じるができる時に、私たちは語ることができるようになるのです。

(六月二五日 公同礼拝)

七月講壇一覽

第一主日(七月二日) 公同礼拝

「口から出るもの、心から出るもの」

高橋和人牧師

イザヤ二九・一三

マタイ一五・一〜二〇

第二主日(七月九日) 公同礼拝

「壁を超える祈り」

高橋和人牧師

エゼキエル二六・一〜六

マタイ一五・二一〜二八

第三主日(七月一六日) 公同礼拝

「ペトロの説教」

姜俔米牧師

詩編一六・八〜一一

使徒言行録二・二五〜三六

第四主日(七月二三日) 公同礼拝

「恵みの更新」

高橋和人牧師

詩編八五・一〜一四

マタイ一五・二九〜三九

第五主日(七月三〇日) 公同礼拝

「この約束」

姜俔米牧師

詩編一二九・五〜六

使徒言行録二・三七〜四二

